



第16回ハンディキャップ競技九州大会

競技報告 (2018/ 10/31-11/ 1)

写真と記事 : M. Kikutake

過去最多の260人がエントリー

異例の2日間に分けた競技実施で

全国大会の九州代表 男女各8人を選抜



第16回ハンディキャップ競技(Hdcp)九州大会は10月31日と11月1日の2日間、福岡県糸島市の志摩シーサイドカンツリークラブ(男子6409ヤ、女子5763ヤ=いずれもパー72)で行われた。今大会は過去に例がない男子204人、女子56人の計260人の大量エントリーがあり、このため急きょ2日間に選手を振り分けて大会が開かれた。

競技はJGA杯 J-sys 選手権(JGAアンダーハンディキャップ競技)の予選を兼ねるもので、例年通りに参加選手各自が持つJGAハンディキャップインデックスを基に開催コースのスロープレーティングによるコースハンディキャップ(H)を算出して適用し、実施された。

今年のJ-sys選手権は11月27日、岐阜県の岐阜関CCで行われ、九州代表は男女とも各8人。このため、出場選手数の割合から、初日(10月31日実施分)は男子5人、女子6人、2日目(同11月1日)は男子3人、女子2人を選抜し、表彰した。

(写真は優勝者たち=左から31日実施競技の男子・山口亮一、女子・吉村邦子、1日実施競技の男子・古賀智紀、女子・近藤ますみの各選手)

10月31日実施競技分

男子は山口亮一（野母崎）がN63で初優勝

この日の糸島地方は曇りで気温 16.1 度、北北西の風 2.3 ㎧とやや肌寒い中での競技となった。

男子は 131 人（欠場 5 人）が出場。この中から、グロス（G）85 で回った 39 歳、山口亮一（野母崎、H22）と G77 の 62 歳、三嶋敏正（大分富士見、H14）の 2 人がネット（N）63 で並んだが、マッチングスコアカードの結果、山口が初優勝した。山口は昨年の寿々木孝嗣（愛野）に続く、長崎勢連覇。

3～5 位も N で 1 打差の 64 で 3 人が並んだが、マッチングスコアカードの結果、3 位に佐藤貴浩（ジェイズ日南、47 歳＝G73、H9）、4 位澤村健太郎（大村湾、48 歳、＝G71、H7）、5 位廣田政彦（司ロイヤル、55 歳＝G71、H7）の順になった。前回優勝の寿々木孝嗣（愛野）は G81、H9、N72 で 69 位。参加最高齢、78 歳の鍋井健三（小郡）は G87、H11、N76 の 107 位だった。

なお、ベストクロスは澤村、広田の 1 アンダー、71 だった。



女子は吉村邦子（セブンミリオン）が N61 で 3 年ぶりの勝利

女子は 45 人（欠場 1 人）が出場し、優勝したのは G95、H34、N61 の吉村邦子（セブンミリオン、49 歳）で、2015 年大会の女子 B クラスの優勝以来、2 度目。この日は 1 番でトリプルボギーを打ったが、アウト 46、イン 49 とまとめた。2、3 位は長浦浩子（福岡セヴンヒルズ、48 歳）と高濱まゆみ（ブリヂストン、62 歳）が G80、H15、N65 と同スコアになったが、マッチングスコアカードで 2 位長浦、3 位高濱になった。4 位は野田留美子（茜、55 歳）で G91、H25、N66。5 位は G85、H18、N67 の宮原稚恵（志摩シーサイド、45 歳）。昨年優勝の堤寛子（チサン森山、35 歳）も G81、H14、N67 だったが、マッチングスコアカードの結果、6 位になった。

11月1日実施競技分

男子は古賀智紀（ブリヂストン）が N65で初優勝

（晴れ、気温 17.5 度、北北東の風 2 ㍓）

第2日の競技には男子 66 人（欠場 2 人）が出場。この日も 1 打を争う白熱した戦いとなった。

優勝洗いは 46 歳の古賀智紀（ブリヂストン）と 57 歳の溝端隆志（志摩シーサイド）の 2 人が G76、H11、N65 と全く同スコアだったが、マッチングスコアカードの結果、古賀の優勝が決まった。

N で 1 打差の 66 にも 3 選手が並んだが、マッチングスコアカードで 3 位にはこの日のベストスコアタイの G74（H8）をマークした井手保臣（八女上陽、51 歳）が入り、4 位金宮盛起（皐月、58 歳＝G78、H12）、5 位山下肇（中九州、47 歳＝G76、H10）の順だった。もう一人のベストスコア G74 は松本誠治（大博多、43 歳）で H5 の N69 で 8 位だった。この日の競技からは上位 3 人が全国大会出場権を得た。



女子はホームコースを制して近藤ますみ （志摩シーサイド）が初優勝

女子は 10 人が出場、残り 2 人の全国大会出場権を争った。

優勝したのは 68 歳の近藤ますみ（志摩シーサイド）で、G82、H13、N69 と好スコアをマーク。同じ志摩シーサイドのメンバー、58 歳の早麻理恵（G84、H15）とネットスコアで並んだが、マッチングスコアカードで初優勝が決まった。3 位は G96、H25、N71 で西田清香（茜、56 歳）だった。



晴れの優勝者たち

山口亮一



3年前にも出場したことがあるが、この時は高ハンディーの男子BクラスでG103、N80で14位。それから比べると、この3年で成長した姿を見せた優勝だった。

「パーが取れなかったので、後半は苦しかった」。3ボギー、1ダブルボギーの41の前半のインはパーが5個。後半のインはダブルボギー、3連続ボギーが2回とパーが2つだけ。しかし、前日の練習ラウンドでは106をたたいていたのが、結果的にはコースの様子をつかめ、この日のラウンドに生きたという。

ゴルフ歴はまだ「7、8年。最初は遊びだった」。シングルプレーヤーの父親に刺激されてのゴルフだったが、所属倶楽部の研修会にも参加

するようになって、本気度も出てきた。住宅のリフォームなどを手掛ける自営。「全国大会には何とか仕事の時間をとって出場したい」。そして、その先には、いずれは「倶楽部チームの一員になれるように練習して、インターにも出たい」と意欲も見せた。

吉村邦子



「メンバーに恵まれ、リズムよく回れました」。優勝の喜びをこう口にした。アウト、インとも出だしは3パット、5パットでトリプルを叩くスタート。しかし、その後はボギー、ダブルボギーは出たものの、46、49にまとめた。

初出場の3年前も女子Bクラスで優勝。出場2度目で、またもV。知り合いのシングルプレーヤーにアイアンショットのチェックをしてもらって臨んだこの大会。「私にとってはかなりいいスコア」と気を良くし、前回は出なかった全国大会は「今度は出たい」と口調も軽かった。

福岡市内の整形外科病院の看護婦長。職場の上司の勧めで10年前から始めたゴルフだが、「ストレスの解消になっているし、いろんな人との出会いや、交流も幅広くなった」とその効用を説く。今では、週一はコースに出ているという。

古賀智紀



「今日の経験がこれからの自分のゴルフに生きてくれれば…」。3バーディー、7ボギーの76は競技での自己ベストだそう。好スコアをマークしての優勝に、喜びとともに抱負が口をついた古賀だった。

「今日は課題を持って回った」と言う。普段のラウンドでは集中力が途切れ、スコアを乱すことがある。それを「最後まで、(気持ちを)緩めない。きっちりやる」と引き締めて臨んだ試合だった。ラウンド中も言い聞かせながら、それが功を奏して「いい結果につながった」と言う。

久留米工大付属高(現、祐誠高)時代は野球部で投手として甲子園を目指した時代もあった。ゴルフは10年ほど前から始め、現在では倶楽

部の研修会にも入り、自分を高めるのに力を注ぐ。「とにかく、実力をつけて、ミッドアマにも出たいし、いずれはインタークラブのメンバーにも入りたい」。そのためにも、全国大会出場も、自分にとってのいい経験になるはず。「今度も、今取り組んでいることの精度を上げて、頑張ってきたい」と、貪欲に糧にするつもりだ。

近藤ますみ



クラブの呼びかけで挑んだ初めての大会だったが、見事に優勝を決めてしまった。「まさか」とは言うものの、「ショットが良かったし、パットもまあまあ。何よりもボールがよく飛んだ」と振り返った近藤だ。

ホームコースだし、「悪いスコアでは上がれないな、と言い聞かせながら頑張った」。インスタートの前半、バーディー1個にボギーが5つの40。後半は池ポチャもあったりして1バーディー、5ボギー、1ダブルボギーの42をたたいた。しかし、全体的にゴルフの内容は悪いわけではなく、「まずまず」と言う。

25年前、福岡市で会社を営む夫に勧められてクラブを握ったのが始まり。過去には倶楽部のレディース選手権を取ったこともある。現在ではその夫が「最近ではゴルフより釣りの方に…」と苦笑するが、ご自分は腕を磨きたいとレディース研修会にも入り、週1～2のラウンドを欠かさない。1年ほど前からはプロについてレッスンも受けている。その効果が「飛距離のアップ」。ドライバーで「250ヤードは行っているんじゃないかしら」とのことで、飛距離を武器に今後は、「女子シニアの世界で頑張りたい」と話してくれた。